高岡の図書館

第105号
2019.9.1

編集・発行　高岡市立中央図書館（〒933-0023 富山県高岡市末広町１－７）　TEL 0766（20）1818　FAX 0766（20）1819

図　書　館　今　昔

高岡市立中央図書館 館長　　佐　藤　里　美

高岡市立中央図書館が、高岡古城公園から高岡駅前のウイング・ウイング高岡内に移転開館したのは、今から15年前の平成16年（2004）４月のことでした。駅前という立地と県内先がけてのＩＴ図書館ということで、大変多くの方が来館されました。また、県内外からの図書館視察も頻繁にあり、開館当初の平日の入館者は１日約4,000人、土曜日ともなると5,000人近くの入館がありました。その様子は、まるでバーゲンセール会場のような熱気と混雑振りで、私たちは日々の業務をこなすのもままならない程でしたが、大勢の方が新図書館の開館を待ち望んでおられたことを実感しました。

当時ＩＴ図書館を目指して取り入れたのは、ＩＣタグによる貸出・返却処理、利用者自身による貸出を可能とした自動貸出機や、無断持ち出しを予防するセキュリティゲートの設置でした。また、図書館システムと連動した自動化書庫も導入しました。近年は、自動返却機や予約ロッカー、電子書籍を導入する図書館も増えてきましたが、平成16年時点の北陸では、何といっても高岡市が最先端でした。

このように自慢気に書いてきましたが、中央図書館は平成14年（2002）11月まで、伏木・戸出・中田図書館はＩＴ図書館直前の平成16年（2004）３月まで、貸出記録票（伝票）に利用者自身が書名等を記入する方法で貸出を行っていました。

ところで、昭和50年代、今から30年以上も前ですが、図書館界では既に利用者自身が記入する方法からブラウン方式等、利用者自身が書名等を記入しない方法への切替えが進んでいましたが、高岡市の図書館（移動図書館を除く）は、ブラウン方式等を採用しないまま、一気にＩＴ図書館となったわけです。

技術の進歩は目を見張るものがあります。たとえば、「予約」の処理方法を例に挙げますと、今なら利用者が自宅に居ながら、図書館のＨＰで蔵書を検索し、希望の図書を予約することができます。高岡市内のどの図書館で受け取るかの選択もweb上で済ますことができます。

これが、電算システム稼働前では、利用者が図書館の窓口または電話で希望する図書を職員に告げ、職員は目録カードで所蔵の有無を調べ、所蔵していれば、書架に行ってみる。そこに無ければ貸出中と判断し、利用者に予約の申込書に書名等必要事項を記入していただく流れでした。貸出中と思われる図書を予約された場合、職員はその書名を探すため、やおら、その時以前の現在貸出中の伝票全てをひたすらめくり、該当する書名があれば貸出記録票に予約の申込書をクリップでとめていました。

今からでは考えられないことですが、希望される図書が開館直後まであったかなかったか、その記憶を頼りに予約の処理を行うのです。そのためもあって、新米職員は毎朝書架の整頓を１時間程かけて行い、その際にどこにどのような図書があり、開館間もなくまではあの小説はあったとか頭に入れました。また、書架がきちんと整頓されていれば、本来あるべき位置に該当の図書が無く、しかも１冊分すっぽり抜けたようになっていれば、貸出中の確率は高まります。本当に貸出中なのかどうかを見極めることに相当力を注いでいました。記憶力の衰えた今の私には、とうていできることではありません。

図書館業務はこの30年余りの間に、貸出・返却処理等の技術面が随分変り、特にweb対応の非来館型の機能が強化され、作業も効率化されてきました。しかし、利用者の方々に対してより良いサービスを提供したい、人と本とを結びつけたい、という図書館で働く私達の思いに変わりはありません。

市民の皆様から頼りにされ、役立つ図書館となるよう努めてまいりますので、今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

題字は「高岡御車山等由緒」による

前田利長と大伴家持

高岡市万葉歴史館　課長補佐研究員　関　隆司

千利休の高弟（いわゆる「利休七哲」）に数えられている高山右近と、選者によっては七哲に選ばれることもある前田利長に、「十文字の炭手」と呼ばれる茶席の逸話がある。利長の炭手前の失敗を、右近が和歌の知識を活かして救う話である。この話は、二人がともに平安末期の源頼政の歌を知っていたことが重要なのであり、そして、まさにその点において、現代の我々には理解できない話である。

実は、源頼政と本名で呼んでいるようでは、この話を理解する資格はない。

頼政の通称は「源三位（げんさんみ）」。平家政権下での源氏長者で、武人でありながら従三位まで昇叙したことが、すべての武家にとって特別な人物だったようである。加えて、歌人としてもよく知られており、勅撰集には59首もの歌がとられ、家集に「源三位頼政集」がある。奈良時代の武家大伴氏よりもはるかに有名であると言ってよい。だから、右近も利長も頼政の歌を知っていたとは簡単に言えないところが、中世・近世の話の難しいところである。

利長・右近の逸話にひかれる歌は、勅撰集にも「源三位頼政集」にもない。だから、創作されたものと否定するのは簡単なのだが、彼らがどのようなものによって古典の知識を得ていたのか、実はよくわからないのである。

■

周知のように、中世文芸の代表でもある琵琶法師や瞽女などの語り物であれば、現在に伝わっていない話の方が多い。また、能・狂言などに代表される芝居物であれば、織田信長が愛したことで知られる幸若舞など、今に伝わらない作品があったこともわかっている。

我々は、偶然現在にまで伝わった文献から古代を想像することしかできない。それらの文献を、まずは疑い、緻密な考証を経て訂正していくのが、近代的な科学研究なのである。

室町時代末から江戸時代初期は、一般的に戦国時代から安土桃山時代と呼ばれているが、この時代の古典文学に関する研究は、文献的な限界があって手つかずの分野も多く、わかっていることの方がはるかに少ない。学問として真実を明らかにすることは素晴らしいことだが、その当時に生きていた人々が「信じていた」こと―たとえ誤りが含まれていても―を知ることも大切なことであると、私は思うのである。

■

たとえば、「百人一首」を知っていれば、当然「中納言家持」の名を知っていることになる。しかしこの人物が「大伴家持」と結びつかない可能性もある。さらには、その人物が「越中守」であったこと、『万葉集』の編纂に関わったかもしれないなどという理解は、現代人にとっても敷居の高い話なのかも知れない。

では、越中にやってきた利長はどうだったのだろうか。奈良時代の「越中守大伴家持」を理解していたのかどうかを考えてみたい。

まずは、大名が「百人一首」を学んでいたのかということから解き始めなければならない。すぐにわかることだが、「戦国大名と百人一首」というような研究課題を立てた学者はいない。学究が無ければ、自分で調べるしかないので、利長が目にする可能性のある百人一首の注釈書の存在を調べてみた。すると、「百人一首」は、一般的であるがために、たくさんの注釈書が存在し、写本が入り乱れているということがわかる。たくさんありすぎて、整理尽くされていないのだ。さらに、戦乱を避けてたくさんの公家たちが地方へ下っていたことや、諸国の大名を回って生計を立てていた連歌師などの存在を思い合わせれば、地方の大名こそ古典文化の担い手であった時期があるということがわかる。つまり、それぞれの大名研究者が、その大名の古典文化享受にまで手を伸ばすようにならないと、私の求める答えは出ないということなのだ。

無論、すでにいくつかの報告は出ており、例えば七尾城の畠山氏が広く古典文学を学び、『伊勢物語』の注釈書を記した人物がいたことがわ

かっている。ところが、その報告者は、地方大名が伊勢物語を読んでいたことに驚いているのであって、その注釈内容や、古典文学全般については触れるところがない。畠山氏の所有していた写本が、前田家に移った可能性に興味があるのだが、調べる手段がない。

■

たとえば、「越中守」という官位は、利長にとってどのようなものだったのだろうか。

利長は「肥前守」がよく知られているし、利長の仕えた織田信長の肩書きは「上総介」が有名であるが、無論それだけではない。守護大名であれば、常に「国司」が意識されるのであり、戦国大名であれば、領土として「国」が意識されていたはずである。大名たちは、「守・介・掾」などの官位を理解していたと考えて誤りはないだろう。とすれば、利長が越中に入国した時に、過去の国守を意識したと夢想するのは、許されないことではない。

一方、守山城に新しい主を迎えることになった人々の動きは、神職の記録しか残されていない。守山城に入った利長が呼び出した二上山の麓の神主は、越中守大伴家持の末裔であることを名乗り、後に利長が訪れた神社の神主は、史書に残る最初の越中守田口年足の末裔を名乗ったと伝える。我々は、越中守の末裔というだけで真剣に受け取らないのだが、重要なのは、利長がどう受け取ったのか、なのである。

■

高岡市立中央図書館に写しが残る「大仏殿由来記」によれば、高岡の大仏は鎌倉時代から二上山の麓で篤く崇敬されていて、利長によって高岡城前に移されたのである。原本は、高岡の多くの史料と同じく、繰り返された大火で失われている。どのような史料が見つかれば、二上山裾にあったことを信じてもらえるだろうか。

明治 31(1898)年に描かれたと思われる「富山縣越中国高岡市鎮座　郷社關野神社及縣社高岡神社之景」という絵画史料がある。この時、關野神社（以下、關ではなく関を使用する）は「郷社」だが、高岡神社は「県社」で格上であった。

絵を詳細に見ると、関野神社と高岡神社は別棟で、間には盛り土のような境があったことがわかる。関野神社には、瓦葺きの立派な拝殿があるのだが、高岡神社には拝殿がないように見える。細かな疑問はいくつも生まれるのだが、その答えを調べる手段が見つからない。

関野神社が、高岡城築城前から存在した熊野社で、所在を幾度か変えて、瑞龍寺南（現在の神主町）に落ち着いた後、享保 11 年(1726)に「關野神社」と名前を変え、文化３年(1806)に、現在の場所（堀上町）に移ったことを知る人は、そう多くない。一方、利長が高岡の繁栄を願って高岡城内に祀ったのは稲荷社で、利長の死後、所在を変え、明治 11 年(1878)に「高岡神社」と改名し、明治 21 年(1888)に、現在の神主町から堀上町の関野神社の横に遷座してきたものであることを知る人は、ほとんどいない。

高岡市観光協会が企画した、城下町の名残を体感するために用意された高岡の古地図には、瑞龍寺の南に大きな「熊野社」と、通りを挟んで「稲荷社」が描かれている。その「稲荷社」の隣には「山王社」がある。関野神社の移転後、80 年ほど稲荷社と山王社があったわけだが、その頃の地図は無い。

関野神社が堀上町に移った理由は、文化３年の「五社等之由来帳」にきちんと記されているが、氏子であってもいまさら移転理由を知りたいと思わないであろう。

■

ところで、「五社等之由来」の五社は、正一位加久彌神社・正一位関野神社・稲荷社・八幡宮・大木宮を指す。この時点では高岡神社（稲荷社）よりも関野神社の方がはるかに格上だったのである。すべてを変えたのは、明治時代初期の神仏分離令である。何があったのか。その一部は、大正 13 年(1924)にまとめられた『射水神社志』に記載されている。高岡の歴史とともに歩んできた高岡関野神社の歴史が、二上山から移ってきた射水神社の歴史と重なる点に、この問題の謎の深さが現れている。

「五社」のうち、筆頭の正一位加久彌神社が由緒ある延喜式内社である。この神社の歴史に、大伴家持が現れてくる。その伝承を聞いた利長は、どんなことを考えたのだろうか。

200 年前に高岡の人々が信じていた伝承がどのようなものであるのか。多くの高岡市民に知っていただく機会が生まれれば良いと思う。

ふるさと情報コーナー

高岡関係資料情報

平成29年度に発行された図書や雑誌に掲載された高岡関係資料のうち、図書館で把握できた文献の一部を紹介いたします。(配列は出版年月順とし、論題名・執筆者名（敬称略）・資料名・巻号数・出版年月の順に記載しました。)

村瀬いくえの石川・富山ぶらり商店街探訪　御旅屋通り　（アクタス　29巻5号　平成29年4月）
高岡西ロータリークラブの50年　高岡西ロータリークラブ50周年記念誌編纂委員会[編]（平成29年6月）
越中とやまのお宝　第41回　勅斗雲〔高岡市美術館蔵〕　（VITA　109号　平成29年6月）
加賀藩と富山藩の明治維新　越中領での変化　明神博幸著　（明神博幸刊　平成29年7月）
農民魂をもつ大学者　五十嵐篤好　（高岡市立博物館刊　平成29年7月）
高岡漆器　小林真理編著　（漆芸の見かた　誠文堂新光社刊　平成29年7月）
家持の時代展　大伴家持生誕1300年記念　高岡市美術館編　（高岡市刊　平成29年9月）
写真で見る永楽町のあゆみ　（永楽町自治会刊　平成29年9月）
金沢で、高岡と前田利長、を探す　樽谷雅好著　（VITA　110号　平成29年9月）
高岡市金屋町、高岡市山町筋、南砺市五箇山相倉、南砺市五箇山菅沼
（日本の最も美しい町　エクスナレッジ刊　平成29年9月）
佐伯先生への高岡からの感謝　新井雅夫著　（土蔵　15号　平成29年9月）
90年の私設図書館　地域とともに歩む（眉丈文庫）高岡市　（まんまる161号　平成29年10月）
中島閘門　黒部ダム　立山砂防堰堤（白岩、本宮、泥谷）　高岡市配水塔
（図説日本と世界の土木遺産　秀和システム刊　平成29年10月）
焼嵌めについて　重要有形民俗文化財　高岡御車山の車輪修理を例として
（月刊文化財650号　平成29年11月）
歌い継ぎたい伏木の歌　麻生春恵著　（麻生春恵刊　平成29年12月）
高岡漆器　伝統工芸のきほん編集室編　（伝統工芸のきほん２　ぬりもの　理論社刊　平成29年12月）
気分はナチュラリスト　国宝「瑞龍寺」とその周辺を訪ねて　菊川茂著　（VITA　111号　平成29年12月）
城下町の記憶を受け継ぐ（富山県高岡市）　（Blue Signal　176巻　平成30年1月）
質の高い急性期医療と回復期医療のベストミックスをめざす。　社会福祉法人恩賜財団済生会　富山県済生会高岡病院（地域医療最前線）　（医療情報誌　医心　64号　平成30年1月）
私のイタイイタイ病ノート（覆刻版）松波淳一著　（松波淳一刊　平成30年2月）
高岡・富山駅弁　ぶりかまめし（鉄旅満腹記　第46回　氷見線　富山県）
（サンデー毎日　97巻10号　平成30年2月25日）
大伴家持と生薬（二）　（高岡市万葉歴史館紀要　28号　平成30年3月）
勅撰和歌集に採られた越中万葉歌　（高岡市万葉歴史館紀要　28号　平成30年3月）
真宗村落の構造と変化 ― 特に北陸地域における「講」の宗教社会的研究 ―
（高岡法科大学紀要　29号　平成30年3月）
北陸の伝統工芸、匠の技を体感する旅。富山県高岡市　鋳物製作体験
（芸術新潮　69巻3号　平成30年3月）
音楽　能作（高岡市）×smoug（スマウグ）（特集　いちずな手仕事）　（まんまる166号　平成30年3月）
仏具　小島大さん　◎小島製作所・高岡市（特集　いちずな手仕事）　（まんまる166号　平成30年3月）
フロンティア　日用品からビル外装材まで　アルミ鋳物技術一筋に、八十八年　北陸アルミニウム（高岡市）
（実業之富山　73巻3号　平成30年3月）
高岡市立福岡小学校開校50周年記念誌　（福岡小学校開校50周年記念事業実行委員会刊　平成30年3月）
高岡市史料集　第29集　一番街通り御車山文書より　（高岡市立中央図書館刊　平成30年3月）

富山県立図書館ホームページ『とやまの本』、「県内記事情報検索」より

調査相談の窓口から

・・・・・ おたずねくださいQ&A（戸出図書館）・・・・・

図書館に寄せられるレファレンスは多岐多様にわたります。所蔵資料だけでは解決できない事例も発生しますが、各種刊行物の保存、新聞記事のスクラップ等、日々ツールの積み重ねに努めております。ぜひお気軽にお尋ねください。

レファレンスの例

Q：戸出野神社の一の鳥居に刻印してある人物について知りたい。現在の苗字はわかるか。

A：『戸出町史』『戸出野神社略記』によると、一の鳥居は嘉永６年（1853 年）、武田家に関係のあった伏木港の船首ら８人が、海上安穏を祈り奉納したとある。武田家は繊維業、菜種油の問屋から海運業まで手広く営んだ豪商。鳥居は６代目芳太郎の持船の荷物の下積みにして運ばれたという。刻印に「伏木能登屋」とあることから『海商能登屋藤井家五代之記』を調べる。７代目能登屋三右衛門（藤井能三の父）の時代に鳥居奉納の記述があり、８人のうち４人は三右衛門の持船の船頭とみられる。続いて『高岡の町々と屋号』を調べると、第３号の小馬出町に「高辻屋八右衛門」について詳述されていた。戸出竹村の生まれで船主であったという。現当主についても記述あり。他に『越中伏木湊と海商百家』に「煙草屋吉左衛門」について、苗字と鳥居奉納についての記述あり。

Q：伏木の藤井家と戸出物産の関わりについて知りたい。

A：『海商能登屋藤井家五代之記』の五代家系図によると、藤井能三の五女“なか”が戸出町吉田家へ嫁すとあり。

この記述だけでは戸出のどこの吉田家かはわからないため、戸出物産発起人の吉田仁平を調べると、『富山県知名人物大鑑』に「家庭には令閨なが子～」とあった。「主なる親戚には藤井陳三」ともあり。藤井陳三は、藤井能三の次男であり、なかの弟。「なが子」は「なか」と同一人物と思われる。さらに、『人事興信録第４版』を調べると、妻“なか”は藤井能三の五女、との記載が確認できた。

Q：文政 12 年の干支を知りたい。

A：『暦の歴史事典』では推古天皇元年（593 年）まで遡ることができる。それによると文政 12 年（1829 年）は丙申（へいしん。またはひのえさる）。干支は十干に十二支を組み合わせたもので、暦の他に方位や時刻を表す。古くは紀元前 14 世紀頃中国殷の時代にはじまり、干支を用いて日を表した甲冑文が発見されている。日本では年に対して重要視されており、その年の干支をとって呼称されたものに「乙巳の変」「壬申の乱」「戊辰の役」などがある。

（押川　千陽　記）

平成年代のベストセラー

1989年１月の改元、消費税導入、そしてベルリンの壁崩壊から始まった「平成」の30年間、様々なベストセラー本が生まれた。90年代に入り、湾岸戦争の勃発、バブル経済の崩壊、半ば以降の阪神大震災での被災、地下鉄サリン事件、2011年の東日本大震災や近年の豪雨など多くの災害に遭った。インターネットが普及し、ＳＮＳからの拡散など情報量が全く変化した時代である。

人々が心の糧や楽しみとしたベストセラー本を振り返る。

〔総合１位〕　　全集は含まない　　「トーハン調べ」による

西暦	平成年代	書　　名	著　　者
1989	1	ＴＵＧＵＭＩ（つぐみ）	吉本　ばなな
1990	2	愛される理由	二谷　友里恵
1991	3	Santa Fe/ 宮沢りえ	篠山　紀信
1992	4	それいけ×ココロジー（１・２・３）	それいけ!!ココロジー編
1993	5	磯野家の謎（正・続）	東京サザエさん学会編
1994	6	日本をダメにした九人の政治家	浜田　幸一
1995	7	遺書	松本　人志
1996	8	脳内革命・脳内革命２	春山　茂雄
1997	9	ビストロスマップ完全レシピ	ビストロスマップ制作委員会編
1998	10	新・人間革命（１・２・３）	池田　大作
1999	11	五体不満足	乙武　洋匡
2000	12	だから、あなたも生きぬいて	大平　光代
2001	13	チーズはどこへ消えた？	Ｓ．ジョンソン
2002	14	ハリーポッターと炎のゴブレット(上・下巻)、ハリー・ポッターと賢者の石、ハリーポッターと秘密の部屋、ハリーポッターとアズカバンの囚人	Ｊ．Ｋ．ローリング
2003	15	バカの壁	養老　孟司
2004	16	ハリーポッターと不死鳥の騎士団	Ｊ．Ｋ．ローリング
2005	17	頭がいい人、悪い人の話し方	樋口　裕一
2006	18	国家の品格	藤原　正彦
2007	19	女性の品格　装いから生き方まで	坂東　眞理子
2008	20	ハリー・ポッターと死の秘宝	Ｊ．Ｋ．ローリング
2009	21	１Ｑ８４（１・２）	村上　春樹
2010	22	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら	岩崎　夏海
2011	23	謎解きはディナーのあとで	東川　篤哉
2012	24	聞く力	阿川　佐和子
2013	25	医者に殺されない４７の心得	近藤　　誠
2014	26	長生きしたけりゃふくらはぎをもみなさい	鬼木　　豊監修・槙　孝子著
2015	27	火花	又吉　直樹
2016	28	天才	石原　慎太郎
2017	29	九十歳。何がめでたい	佐藤　愛子
2018	30	漫画　君たちはどう生きるか	吉野　源三郎原作、羽賀　翔一画

1989については、〔文芸１位〕による
集計期間は各年の前年の12月（但し、2015年以降は11月）からその年の11月中

高岡市立図書館ベストリクエスト

・1～５位

西暦		書　　名	著　　者
2006（平成18）	1	ハリーポッターと謎のプリンス　上	Ｊ．Ｋ．ローリング
	2	ハリーポッターと謎のプリンス　下	Ｊ．Ｋ．ローリング
	3	東京タワー	リリー・フランキー
	4	名もなき毒	宮部　みゆき
	5	ダ･ヴィンチ･コード下	ダン　ブラウン
2012（平成24）	1	舟を編む	三浦　しをん
	1	ナミヤ雑貨店の奇蹟	東野　圭吾
	3	虚像の道化師	東野　圭吾
	4	６４	横山　秀夫
	5	三匹のおっさんふたたび	有川　浩
2018（平成30）	1	すぐ死ぬんだから	内館　牧子
	2	沈黙のパレード	東野　圭吾
	3	未来	湊　かなえ
	4	かがみの孤城	辻村　深月
	5	魔力の胎動	東野　圭吾

・1～10位

2006～2018（平成18～30）	1	告白	湊　かなえ
	2	１Ｑ８４　BOOK２	村上　春樹
	3	１Ｑ８４　BOOK１	村上　春樹
	4	１Ｑ８４　BOOK３	村上　春樹
	5	舟を編む	三浦　しをん
	6	海賊とよばれた男　上	百田　尚樹
	7	海賊とよばれた男　下	百田　尚樹
	8	火花	又吉　直樹
	9	マスカレード・ホテル	東野　圭吾
	10	永遠の０	百田　尚樹

中央、伏木、戸出、中田、福岡図書館（全館）のリクエストによる　各年度４月～３月

— 高岡の歴史散歩 ㉙ —

中田と大伴家持

平成31年4月1日、新元号「令和」が発表された。令和は、大宰府で大伴旅人が開催した梅花の宴の情景を記した万葉集が典拠である。この梅花の宴を開催した大伴旅人は、万葉集の編纂に関わったとされる大伴家持の父にあたる人物である。

大伴家持及び万葉集は高岡と馴染が深く、家持は奈良時代（西暦746年）に国司として越中国（現在の富山県及び石川県能登地方）に赴任し、約5年間で220首余りの歌を残した人物である。家持は国司として越中国内を巡行し、各地で歌を残している。その中に「雄神河　紅にほふ　娘子らし　葦附取ると　瀬に立たすらし」（巻17・4021）と、詠んだ歌がある。この歌は、川のほとりで娘子が葦附（あしつき）を採取する様子を詠んだ歌である。あしつきは清流に自生する緑色の藍藻植物である。

なお、高岡市の中田地区はあしつきと関わりが深い地域である。昭和初期にあしつきの減退が目立った際には、あしつきを保護するため保存会が結成された。さらに、昭和中期に生活環境が大きく変化したことに伴いあしつきが絶滅の危機に瀕した際には、あしつきが生息できる環境を整備した。このように、中田地区では長年に渡りあしつきの保存活動に取り組んできた。また、同地区内のあしつき公園には、家持の詠んだ歌が刻まれた石碑が残されている。

「雄神河」、「葦附」という言葉を歌に残した家持は、越中国内を巡行した際に中田地区周辺へ訪れたのであろうか。歴史の謎をひも解く。

【雄神河】

宝暦14年（1764年）調書の礪波郡から加賀藩への書上帳では、「飛州（飛騨の別称）にて、みぞれ峠と申すところより流れ申す川と、白山下より流れ出すあら谷川、その他飛州の内々谷より流れ出し申す川、同国にて落ち合い、飛州にては白川ととなえ、越中にては庄川と申し候。射水郡伏木港にて海へ流れ入り候。水源より海まで、たいがい四十里ほど御座候。ただし、雄神川とも申し候。庄金剛寺村（現在の砺波市庄川町雄神地区付近）に雄神神社御座候。飛州にて雄神谷と申す川流れ入り候。いずれにて雄神川と申し候や、委細相知れ申さず候。中田村辺にては中田川とも申し候」と記録されている。家持が越中を訪れてから約1,000年後の記録であるが、庄川が雄神川とも呼ばれていたと記述されている。

ただし、現在の庄川は砺波市庄川町金屋から高岡市牧野方面へ流れる南北に連なる河川であるが、かつて本流は砺波市庄川町金屋から北西に向かって小矢部川と合流していた。それが洪水のたびに本流が西から東へ移っていった経緯がある。現在の川筋に近づいたのは、天正13年（1585年）に発生した天正地震による影響が大きい。

【葦附】

あしつきは、清流に生息する緑褐色の寒天状の藍藻植物でネンジュモ科の淡水藻である。かつては庄川沿いの中田や戸出石代、利賀村の百瀬川だけに生息していると思われていたが、近年の調査で黒部市や魚津市等の富山県東部でも生息が確認されている。

なお、家持が歌に残した「葦附」は、モズクの一種であるカワモズクではないかという説もある。

【大伴家持の巡行経路】

家持は国司の務めを果たすため越中国内を巡行している。「雄神河　紅にほふ（以下省略）」（巻17・4021）は、礪波郡（現在の高岡市南部、砺波市、小矢部市及び南砺市）で詠まれている。この次に家持は、「鵜坂河　渡る瀬多み　この我が馬の　足掻きの水に　衣濡れにけり」（巻17・4022）と詠んでいる。鵜坂河（うさかがは）は神通川の古い呼び名とする説があり、神通川は富山県の中心部を流れている。また、神通川流域の富山市婦中町には鵜坂（うさか）という地名が残っている。家持が砺波平野から東へ移動した可能性は高い。

【論結】

家持が越中国内を巡行した際に砺波平野から東へ移動した可能性は高いが、正確な道筋を特定するには至らなかった。また、歌を詠んだ場所も庄川流域である可能性は高いが、古代の河川は現在の整備された河川と異なり、時の経過や氾濫によって流路が変化したことを踏まえると、正確な場所を特定することはできなかった。

家持は何処で歌を詠ったのか。また、家持が目にした景色は、一体どのような景色だったのか。

ところで、中田地区には、先人の方々と現住民の方々の努力によって昔と変わらない豊かな自然が残されている。清流が湧き、ホタルが生息し、四季の移ろいと共に違った表情を見せる中田の風景。家持が見た景色は、今私達が目にしている景色に似ているのかもしれない。

＜参考資料＞

「葦附誌」「越中万葉百科」「庄川」「庄川町誌」
「とやまの自然101」「富山県の河川」「中田町誌」
ほか

（櫻井　佑歩　記）

お知らせ

行事予定（変更になる場合があります）

令和×万葉 TAKAOKA

中央図書館

えほんのじかん　毎週月～金曜日
（祝日、第4月曜日を除く）
午前11時～15分程度

えほんの広場　毎週土、日曜日、祝日
午前11時～30分程度

土曜おはなし会　午後2時～2時30分
第1土曜日　高岡おはなしの会
第2土曜日　図書館ボランティア おはなし会
第3土曜日　高岡第一学園
幼稚園教諭・保育士養成所
第4土曜日　人形劇団どんぐりコロコロ
午後2時～2時30分

高岡婦人読書会　毎月第3水曜日　午後2時～
「古文書を学ぶ会」　10月19日(土)
午前10時～11時30分
（受講受付締切ました）

伏木図書館

こども読み聞かせ会　毎週土曜日
午前11時～

古典の会　毎月第2日曜日
午前10時～

読書会　毎月第3土曜日
（8月なし）　午後1時30分～

戸出図書館

こども読み聞かせ会　毎週土曜日
午前11時～

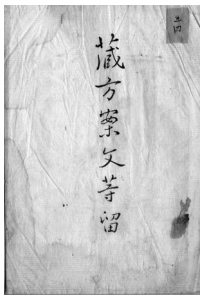
中田図書館

子ども読み聞かせ会　毎週土曜日
午前10時30分～

福岡図書館

おはなしの部屋（読み聞かせ等）　毎週土曜日
午前11時～

・古文書で学ぶ高岡の歴史
高岡市史料集解説講座　高岡市史料集第30集より
「近世後期の流通と蔵宿のあり方」
9月14日(土)
午前10時～11時30分
高岡市生涯学習センター 5階研修室501にて
講師の山崎明代さん（『高岡市史料集』解読講師）
に古文書の解説をしていただきます。
資料代100円（募集は9月6日(金)～）



※ 中央図書館は毎月第4月曜日のみ休館します。（年末年始 12月29日～1月3日 休館）

伏木・戸出・中田・福岡図書館利用案内

9月

日	月	火	水	木	金	土
1	②	3	4	5	6	7
8	⑨	10	11	12	13	14
⑮	⑯	17	18	19	20	21
22	㉓	24	25	26	27	28
29	㉚					

10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	⑦	8	9	10	11	12
13	⑭	⑮	16	17	18	19
⑳	21	㉒	23	24	25	26
27	㉘	29	30	31		

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
③	④	5	6	7	8	9
10	⑪	12	13	14	15	16
⑰	18	19	20	21	22	㉓
24	25	26	27	28	29	30

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	②	3	4	5	6	7
8	⑨	10	11	12	13	14
⑮	16	17	18	19	20	21
22	㉓	24	25	26	27	28
29	30	31				

〇印は伏木・戸出・中田図書館の休館日　□印は福岡図書館の休館日

高岡市立中央図書館　〒933－0023 末広町1－7　TEL（0766）20－1818　FAX（0766）20－1819
高岡市立伏木図書館　〒933－0104 伏木湊町13－1　TEL（0766）44－0073　FAX（0766）44－0073
高岡市立戸出図書館　〒939－1104 戸出町3－19－29　TEL（0766）63－1254　FAX（0766）63－1254
高岡市立中田図書館　〒939－1272 下麻生1108　TEL（0766）36－0054　FAX（0766）36－0054
高岡市立福岡図書館　〒939－0132 福岡町大滝44　TEL（0766）64－1034　FAX（0766）64－1038